



(左)片山楊谷《梅に錦鶏鳥図》部分(個人蔵)
(右)島田元旦《山水人物花鳥虫獸図》19面のうち(個人蔵)

企画展 5月22日(土)～6月20日(日)

「楊谷と元旦」..... 2

企画展 7月17日(土)～8月29日(日)

「シーラカンス」..... 3

生まれ変わる「山陰海岸学習館」..... 4・5

[自然] 観察ガイド「隠れジオスポット・滝ヶ磯の柱状節理」..... 6

[人文] コラム「鳥取藩の水軍」..... 6

[美術] 近代美術常設展示「生誕100年 尾崎悌之助展」..... 7

新収蔵品紹介「植田正治《パパとママと子どもたち》」

[お知らせ] 開館時間を延長しています..... 7

講座・観察会・毎週土曜日はアートの日！..... 8



よう こく げん たん
 一因幡画壇の奇才一 楊谷と元旦

今春、鳥取県立博物館では、片山楊谷(1760～1801)と島田元旦(1778～1840)という二人の画家を採り上げた企画展を開催します。長崎生まれの楊谷と、江戸生まれの元旦は、ともに成人してのち鳥取と深いつながりを持った人物で、現在では江戸時代の鳥取の美術を語る上で欠くことのできない画家となっています。2010年は、楊谷の生誕250年にあたる記念すべき年であり、本展は、楊谷を大々的に紹介する初の試みでもあります。一方の元旦も没後170年を迎え、ともにその価値を再評価・再認識する時期にあります。展覧会は、楊谷と元旦の2部構成で、両者の作品を合計100点ほど、また彼らに影響を与えたと考えられる中国の画家や谷文晁など、周辺の画家の作品も一緒に展示し、前・後期で部分的に入れ替えも行う、盛りだくさんの内容を考えています。ここでは二人の前半生を中心にご紹介することとしましょう。

まず楊谷は、長崎の医師の家に生まれました。姓を洞といい、父親は中国



(図1)片山楊谷《花王獣王図》(当館蔵)

人であったといわれています。しかし幼い頃に父を亡くし、若くして絵でもって身を立ようとした楊谷は、長崎で画技を身に付けたのち祖国を出、京、甲州、江戸、但馬、そして鳥取などを巡遊しました。鳥取に滞在中、鳥取藩西館の池田冠山の目にとまったといわれ、三十五歳のとき、その家臣である片山家の家督を継ぐことになりました。このときを境に楊谷は、「洞楊谷」から「片山楊谷」となり、落款(サイン)も、「瓊浦(※長崎のこと)楊谷」から「稲葉楊谷」へと変化します。《花王獣王図》(図1)は、タテ183cmもある大幅で、楊谷24歳の時の作です。溪流に近付き水を飲むようにしている一匹の虎。尻尾をピンと上げて、こちらに視線を向けた一瞬の様子が捉えられています。この作品の大きな魅力となっている虎の柔らかく美しい毛並みは、一本一本極めて細い筆で描いた結果生まれたもので、以後の楊谷作品の特徴ともなっています。

一方の元旦は、江戸で田安家に仕えていた漢詩人・谷麓谷を父として生まれました。15歳年の離れた兄に、江戸を代表する画家として有名な谷文晁がいます。元旦は兄に学ぶにとどまらず、16歳の時には大坂に出て博物学者の木村兼葭堂のもとを訪れており、同じ頃、京の円山応挙に師事したと伝えられています。江戸に戻った元旦は、幕府の蝦夷調査隊の一行に連なり、その地の風景や風俗をスケッチしました。そして24歳で鳥取藩江戸留守居役の島田家に養子入りし、以後画家としてだけでなく、鳥取藩士としても活躍しました。《山水人物花鳥虫獣図》(図2)は、元旦25歳の時の作品です。全部で19面ある中には、オオカミを描いた珍しいものもあります。またそれぞれ琳派、狩野派、土佐派、長崎派など、諸派の画風で描き分けられており、元旦がすでにそれらの技法を



(図2)島田元旦《山水人物花鳥虫獣図》19面のうち(個人蔵)

使いこなすまでに習熟していたことが知られます。

両者がその後、どのように画風を展開させていくのか、その様子はぜひ、展覧会にお越しいただき、ご自身の目でお確かめいただければと思います。みなさまのご来場をお待ちしております。(美術振興課 山下 真由美)

- 会 期 5月22日(土)～6月20日(日)
 (6月7日(月)のみ展示替のため休館)
- 会 場 2階 第1・2・3特別展示室
- 入館料 個人当日/600円
 個人前売、20名以上の団体/400円
 大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 関連行事
 - 特別講演会Ⅰ
 「因幡画壇の黄金時代はいかにして作られたか」
 5月29日(土)14時～15時30分 講堂(無料)
 講師:成澤勝嗣氏(早稲田大学文学学術院准教授)
 定員:250名(申込不要・先着順)
 - 特別講演会Ⅱ
 「風景への熱情
 ー江戸時代の山水癖(マニア)と谷元旦ー」
 6月12日(土)14時～15時30分 講堂(無料)
 講師:内山淳一氏(仙台市博物館学芸室長)
 定員:250名(申込不要・先着順)
 - アートセミナー「謎の絵師・片山楊谷」
 6月5日(土)14時～15時30分 講堂(無料)
 講師:門脇博(当館美術振興課)
 定員:250名(申込不要・先着順)
 - アートセミナー
 「谷元旦から島田元旦へー『蝦夷紀行』を中心にー」
 6月19日(土)14時～15時30分 講堂(無料)
 講師:山下真由美(当館美術振興課)
 定員:250名(申込不要・先着順)
 - 担当学芸員によるギャラリートーク
 5月22日(土)14時～15時
 特別展示室(要入場料) 定員:なし

シーラカンス –その進化と大陸移動–

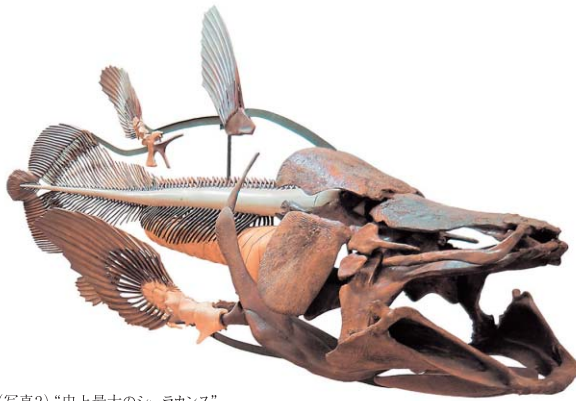
史上最大のシーラカンスがやってくる! シーラカンスは、「生きている化石」とも呼ばれます。かつては恐竜とともに絶滅したと考えられていましたが、ほんの70年ほど前(1938年)、アフリカで生きた個体が確認され、世界的なニュースとなりました。その姿も独特で、ヒレの付け根が「腕」のような形になっていて、「四本足の魚」とも呼ばれます。なんとも興味深い動物ですが、その実態はいまだにわからないことだらけ。この展覧会は、そんなシーラカンスの謎と魅力に迫ります。

もっとも初期のシーラカンスのひとつである、ミグアシャイア(写真1)は、古生代デボン紀後期(約3億6500万年前)に登場しました。この化石は、この時代のシーラカンスの中でも全身がよく残されており、第2背ヒレと臀ヒレに「腕」がないなどの原始的な特徴をみることができます。古生代石炭紀から中生代三畳紀(約3億6000万～2億年前)には、シーラカンス類は淡水や浅い海などさまざまな環境に進出し、多くの種類が出現しました。背中がせりあがり、口が小さいアレニプテルスや、ほっそりとした体型のカリドストール、やや頭でっかちのディプルルスなど、姿かたちもさまざまです。じっくり見比べてみると、おもしろいですよ。

そして白亜紀(約1億5千万～6500万年前)には、推定全長3.8mの“史上最大のシーラカンス”マウソニア・ラボカティが登場します。これは北アフリ



(写真1) 初期のシーラカンス「ミグアシャイア」
[実物化石:北九州市立自然史・歴史博物館蔵]



(写真2) “史上最大のシーラカンス”
「マウソニア・ラボカティ」(全長3.8m) [復元骨格:北九州市立自然史・歴史博物館蔵]

カのマロッコなどで頭骨の一部が見つかったものですが、近縁のマウソニア・ブラジリエンスの全身化石などを参考にして、全身骨格の復元がなされました(写真2)。この迫力、ぜひ間近で体験してください。

ブラジル北東部にあるアラリペ台地は、保存状態のよい白亜紀の化石が豊富に産出することで有名です。シーラカンス類のアクセルロディクチスでは、若魚から成魚まで各段階の化石が見つかっていて、成長の様子が観察できます。その他さまざまな魚類化石が、立体的に保存されているのも特徴です。これらは近い仲間の化石がアフリカ大陸でも見つかっていて、かつては両大陸がひとつだったという「大陸移動説」を裏付ける証人ともなっています。展示では、それらを紹介する他、数百点の魚類化石標本群の中を歩く「魚類化石の床と壁」といった趣向も凝らしています。

新生代(約6500万年前～現在)になると、シーラカンス類の化石記録はぷつぷり途絶えてしまいます。そして20世紀の劇的な発見まで、彼らは人知れず深い海の底で生き続けてきたのです。

近年、アクアマリンふくしまがインドネシアとタンザニアの海底で、生きたシーラカンスの水中映像の撮影に成功しま

した。また東京工業大学の研究チームが中心となり、タンザニアから寄贈されたシーラカンス標本でCTスキャンの撮影や解剖を行なっています。この内部構造についての研究は、

史上最大のシーラカンスの復元作業にも活用されました。展示では、こういった最新の研究成果も紹介します。とくに生きたシーラカンスの水中映像(写真3)は、必見です! ヒレを交互に動かし、漂うように泳ぐその姿は、なんとも言えず神秘的です。

この夏、深い海と悠久の太古の世界に、どっぷりひたってみませんか?

(学芸課 一澤 圭)



(写真3) 生きたシーラカンスの水中映像
[写真提供:アクアマリンふくしま]

- 会期 7月17日(土)～8月29日(日) 無休
- 会場 2階 第1・2特別展示室
- 入館料 個人当日/700円
個人前売、20名以上の団体/500円
大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料

- 関連行事
 - 講演会「シーラカンスとブラジル魚類化石」
7月17日(土)14時～15時30分 講堂(無料)
講師:パウロ・プリー博士
(リオデジャネイロ州立大学教授)
※通訳:籾本美孝博士(北九州市立自然史・歴史博物館)
定員:250名(申込不要・先着順)
 - 展示解説
「大陸移動とシーラカンス類の進化」
7月18日(日)13時30分～14時30分
第1・2特別展示室(要入場料)
講師:籾本美孝博士
(北九州市立自然史・歴史博物館)
定員:なし(申込不要)

生まれ変わる「山陰海岸学習館」

山陰海岸学習館リニューアルのお知らせ

鳥取県立博物館の附属施設『山陰海岸学習館』は、山陰海岸の美しい景観や動植物など、山陰海岸の魅力をさまざまな角度から紹介するとともに、豊かな自然の中で楽しく学びながら、自然を大切にすることを育んでいただける拠点として活動しています。

この目的をより効果的に行うことができるように、現在、展示室のリニューアルに取り組んでいます。平成22年5月には、展示内容などを一新して皆様をお迎えいたします。

山陰海岸ジオパークの拠点として

山陰海岸国立公園をふくむ山陰海岸一帯は、豊かな自然に恵まれた魅力あふれる地域です。

そのすばらしさを国内はもとより世界の人々にも知っていただくこと、鳥取、兵庫、京都の三府県の地域住民や民間企業、行政などが一体となって、経

岬(京丹後市)から白兔海岸(鳥取市)までの東西約110キロメートル、南北最大30キロメートルのエリアを『**山陰海岸ジオパーク**』として保全・活用する取組を進めています。



「ジオパーク」とは貴重で美しい地質遺産のある自然公園のことですが、山陰海岸ジオパークは、平成19年12月に日本ジオパークに認定され、平成20年10月には世界ジオパーク加盟へ向けた国内候補地に選定されました。

山陰海岸学習館も山陰海岸ジオ

パークの拠点施設の一つとして、山陰海岸の貴重な地形や地質はもちろん、そこにくらす豊かな生きものも分かりやすく紹介し、『山陰海岸ジオパーク』の魅力と価値を多くの方に伝えたいと思っています。

新しくなる展示コーナー

新しい展示室は6つのコーナーで構成され、「見て・さわって・調べる」ことのできる体験型展示も取り入れ、どなたでも楽しみながら学んでいただける内容となっています。

①山陰海岸ジオパーク

展示室に入って正面にあるのが、『山陰海岸ジオパーク』のおもなジオスポットを多彩な写真で紹介するパネルと『山陰海岸ジオパーク』全域を表示した横幅約2メートルの地質地形模型です。山陰海岸ジオパークの魅力をお

